



全情短職員研修会開く

8月27日～29日 ウインクあいち
わかば館が事務局

平成二十四年度全国情緒障害児短期治療施設協議会主催
障害児短期治療施設職員研修会（愛知県、全国情緒障害児短期治療施設協議会主催）が「情緒障害児短期治療施設における治療と専門職の連携—社会的養護のこれから」をテーマに八月二十七日から二十九日まで名古屋駅前の愛知県産業労働センター・ウインクあいちで開かれました。

全国三十七箇所で開設九年目の施設の各種職員が一堂に集まる年一度の研修会で、わかば館が事務局を受け持ちました。

施設、関係機関の職員に対し、子どもの治療にかかる専門的知識や具体的援助技術の研修を実施し、児童福祉会、同県社会福祉協議会、同県教育委員会、施設長会、中日新聞社会事業団後援の一層の向上を図ることとともに、関係機関の相互理解を深めるのが目的です。厚生労働省、愛知県中央児童福祉施設長会、中日新聞社会事業団後援の二つの連携について（講師：リック・ムーア）。

ひめの田中康雄院長が「社会的養護の困難性と可能性」と題した基調講演を行った。会場をホテルに移した交流会で、

大学文学部心理学科・滝川一廣教授が「虐待を受けた子への理解とケア」をテーマに教育講演。午後は、「福祉」「インシデント・プロセス法による問題解決の実際」（講師：豊田西病院精神科小野宏医師）。

精神科岡田和史医師▽心理「対応が困難になった事例へのアプローチ」（講師：愛知淑徳大学大橋重保非常勤講師）▽看護「情短での多職種・看護師間の連携を考える」（助言者：名古屋市中央児童相談所堀未来係長▽施設等関係者協議「愛知県児童福祉の現状と虐待対応について」（講師：

細江逸雄半田市教育委員会こども支援アドバイザー）▽写真右が「青少年の心の問題・背景を考えて社会的事例を通じて社会的背景を考慮する」と題して特別講演を行った。

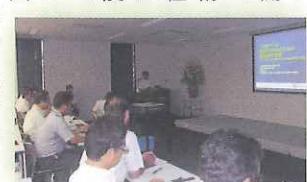
最終日は、前愛厚ならタード・大野香代子セントラル長の一五つの分科会に分かれてそれぞれの課題を協議しました。

講演・閉会式で、来年度開催予定地の鹿児島県・鹿児島自然学園長があいさつ、三日間の研修会を終えた後、希望者四十五人が中日青葉学園を見学して三日間の幕を閉じました。

青葉通信

第13号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園



中日青葉学園理念

「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を囲り、安全で安心できる生活を提供します。
- スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育育ます。
- 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

は、北海道から鹿児島まで全国のお国言葉が飛び交い、親睦を深めました。中日新聞社から記念品として全員にドラゴンズファン向けユニホームのプレゼントがあり、ひいきの球団、男女に關係なく喜ばれました。

島まで全国のお国言葉が飛び交い親睦を深めました。中日新聞社から記念品として全員にドラゴンズファン向けユニホームのプレゼントがあり、ひいきの球団、男女に關係なく喜ばれました。参加者は同部会の五人が今回研修会は二百人。昨年二月の施設長会議で近藤館長が受け入れを表明したあと、石垣指導課長、高寄指導係長、大嶋主任心理士を中心とする主催者となる県全情短事務局（滋賀県・さざなみ学園）と連絡調整を取りながら、各講演・分科会内容を詰めていました。

要項作成、参加者募集、申し込み受け付け、会場準備などなど担当者はそれぞれの役目を、日々、わかれでなくあおば館職員も参加者受け付け、案内、誘導係として取り組み、複合施設の良さを発揮できました。また、東海三県の情短施設、県社会福祉協議会、県児童福祉施設長会などに、おば館職員も参加者受

け付け、案内、誘導係として取り組み、複合施設の良さを発揮できました。また、東海三県の情短施設、県社会福祉協議会、県児童福祉施設長会などに、おば館職員も参加者受



二十四年度全国情短研修会

全社協・全国児童養護施設協議会

倫理綱領

- 私たちは、子どもの利益を最優先した養育をおこないます
- 私たちは、子どもの理解と受容、信頼関係を大切にします
- 私たちは、子どもの自己決定と主体性の尊重につとめます
- 私たちは、子どもと家族との関係を大切にした支援をおこなっています
- 私たちは、子どものプライバシーの尊重と秘密を保持します
- 私たちは、子どもへの差別・虐待を許さず、権利侵害の防止につとめます
- 私たちは、最も良の養育実践を行うために専門性の向上をはかります
- 私たちは、関係機関や地域と連携し、子どもを育みます
- 私たちは、地域福祉への積極的な参加と協働につとめます
- 私たちは、常に施設環境および運営の改善向上につとめます

2010年5月17日 制定

近藤館長 四十五年表彰

近藤日出夫わかば館長は、この八月、勤続四十五年を迎えた。近藤館長は、昭和四十二年八月、調理員で採用、四十七年から指導員、平成十五年十月、指導療育部長、二十三年一月からわかば館長を務めています。

近藤館長は、昭和四十二年八月、勤続四十五年を迎えた。近藤館長は、昭和四十二年八月、調理員で採用、四十七年から指導員、平成十五年十月、指導療育部長、二十三年一月からわかば館長を務めています。



近藤日出夫わかば館長は、この八月、勤続四十五年を迎えた。近藤館長は、昭和四十二年八月、調理員で採用、四十七年から指導員、平成十五年十月、指導療育部長、二十三年一月からわかば館長を務めています。

愛知中央ライオンズクラブ三十五周年記念事業として日本昔ばなしの会が十月十四日、多目的ホールで開かれました。表・田中ふみえさんが千景の語りグループ「ふみの会」代表・田中ふみえさんが千景の会代表・浅井大美子さんと井大美子さんの琴演奏に合わせ、「笠地藏」と「貧乏神」と「福の神」を話しました。幼児から中学生まで三十人が熱心に聞き入っていました。

手芸の楽しさを知つてもらおうと、ソーキング教室(社会事業団主催)が六月から始まりました。



作家小嶋三奈子さんらの手ほどきを受け来年春まで九回にわたり、吊るし雛を手作りします。三月三日には作品を飾り、ひな祭りを祝います。

手芸の楽しさを知つてもらおうと、ソーキング教室(社会事業団主催)が六月から始まりました。



愛知中央ライオンズクラブ三十五周年記念事業として日本昔ばなしの会が十月十四日、多目的ホールで開かれました。表・田中ふみえさんが千景の語りグループ「ふみの会」代表・田中ふみえさんが千景の会代表・浅井大美子さんと井大美子さんの琴演奏に合わせ、「笠地藏」と「貧乏神」と「福の神」を話しました。幼児から中学生まで三十人が熱心に聞き入っていました。

愛知中央ライオンズクラブ三十五周年記念事業として日本昔ばなしの会が十月十四日、多目的ホールで開かれました。表・田中ふみえさんが千景の語りグループ「ふみの会」代表・田中ふみえさんが千景の会代表・浅井大美子さんと井大美子さんの琴演奏に合わせ、「笠地藏」と「貧乏神」と「福の神」を話しました。幼児から中学生まで三十人が熱心に聞き入っていました。

トピックス

昔ばなしの会

児童性問題の苦情

夏の目的別活動

社会福祉法人中日新聞社会事業団

八月末に退所した小学低学年女子の保護者から「在園

中、小学低学年男子に性的ないたずらを受けた」と苦情がありました。男子児童を聴取、内容がほぼ一致したため、女

子と保護者に謝罪するととも

に、①男子児童の指導と背景

の分析②問題の場所となつた

位置に鍵を設置③隠れ場とな

りそくな所での進入防止④児

童の状況に気を配るなど再発

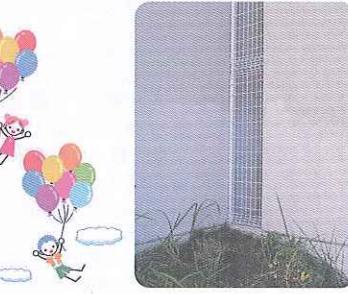
防止策を講じています。

A班 七月十四、十五日、児童と小学生が参加、美浜町・若松海岸での海水浴と南知多ビーチランド(招待)での動物との触れ合い。

B班 七月二十三、二十四日、小学生が中津川・夕森キャンプ場で川遊び、魚掴み、バーベキュー。

C班 七月二十六、二十七日、中高生が若狭湾・松原海岸と常神半島無人島で素潜り、釣り。

D班 八月二、三日、小中高生が伊賀の里などで酪農・陶芸体験。



各班とも天気に恵まれ、子どもたちは夏休みの良い思い出を作りました。



平成23年度 中日青葉学園決算

あおば館 (単位:円)

わかば館 (単位:円)

	収入の部	支出の部		収入の部	支出の部
1.措置費	178,855,341	1.人件費	133,482,112	1.措置費	135,341,825
2.補助金	24,263,400	2.事務費	18,256,268	2.補助金	9,545,000
3.寄付金	8,529,750	3.事業費	55,981,117	3.寄付金	2,303,000
4.維收入	5,204,407	4.固定資産取得	4,127,065	4.維收入	2,372,991
5.利息配当	7,845	5.人件費積立金	2,000,000	5.利息配当	4,529
6.線入金	5,000,000	6.修繕費積立金	2,000,000	6.線入金	15,000,000
7.助成金等	0	7.助成金等	2,000,000	7.助成金等	0
8.積立金取崩	0	8.次期積越金	4,014,181	8.積立金取崩	0
9.繰越金取崩	0	9.繰越金取崩	0	9.繰越金取崩	6,280,539
合計	221,860,743	合計	221,860,743	合計	164,567,345
				合計	164,567,345

編集後記

懸案となつていた全情短研修会を小さなトラブルはあつたものの無事終えることができた。わかば館の業務だが、三日間あおば館の職員も大会運営とわかば館の日常業務に力を貸し、学園を挙げて取り組んだ。ピックインベントは完了したもので、学園内では児童の明るい話題がある一方で低学年児童の性的問題があり、全職員が対応に当たつて」と対応に追われました。

(M)

社会福祉法人中日新聞社会事業団
〒460-8511
名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社1階
電話052 (221) 0580
ファックス052 (221) 0839
中日青葉学園
〒470-0131
愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164
児童養護施設「あおば館」
電話0561 (72) 0134
ファックス0561 (74) 2315
児童心理治療施設「わかば館」
電話0561 (74) 7752
ファックス0561 (72) 7557